

講演者：中嶋 幹起 先生

演題：満洲語の楽しみ —《清文啓蒙》を再読する

概要：中国の清王朝は漢族とは異なる異民族王朝であった。満洲族の満洲語は国語であり、支配言語であった。その時代に民間で刊行された学習書、《清文啓蒙》を取り上げて冒頭の第一字頭の「文字と発音」に相当する部分を中心に解説する。その異形の字形と書面語の文字は丁寧な説明をする。中国の西北部の一地区で満洲語は生きた言語であることを除けば、もはや消滅に瀕した状態にある。それを学習するのはどんな意味があるのか。中国には膨大な満洲語文献資料が残されていて、かたよりのない中国の歴史・文化の解明には満洲文語を理解することが必要の要件であることを述べたい。

以上